



BIMONTHLY REPORT

バイマンスリーレポート
No.

406 SENDAI KEIZAI DOYUKAI
2021.2.20



【拡大特集】

まちづくりフォーラム
パネルディスカッション

**それぞれが知恵を出し合い、
魅力ある都市として仙台を変革し、
若者が集まる町にしていきたい**

【巻頭言】 年頭所感

**ニューノーマル時代に対応する
まちづくりと地方創生**

代表幹事／大山 健太郎

**変化に敏感に対応して
難局を乗り越えよう**

代表幹事／一力 雅彦



明日を考え未来を語る

アリババが目指す究極のUX(ユーザーエクスペリエンス)
令和3年の新年会を盛大に開催

ニューノーマル時代に対応する まちづくりと地方創生

代表幹事 大山 健太郎

アイリスオーヤマ株式会社
代表取締役会長



あけましておめでとうございます。皆様には穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルスの感染拡大により今までの生活様式が大きく変化したことは言うまでもありません。当会の活動におきましても、2月～4月例会、通常総会等の会合を中止せざるを得ない状況になり、会員の皆様には多大なご迷惑をお掛け致しました。6月からは例会を再開し、徐々にではありますが活動を再開しております。会合では会場入り口での検温、ソーシャルディスタンスの確保等の感染対策を徹底しておりますので、皆様のご参加をお待ちしております。

さて、冒頭でもあるように今後はニューノーマルの時代が求められております。そのような状況の中、まちづくり委員会の菅原裕典委員長と産業競争力強化委員会の深松努委員長の発案で、新たに「まちづくりフォーラム」を開催致しました。フォーラムではニューノーマル時代の中、東京一極集中の是正、人口減少を前提に、若者に選ばれる「魅力あるまち・仙台」をどう作るのかを議論致しました。12月にはこのフォーラムでの議論をまとめ、仙台市長へ「仙台まちづくり提言」を手交致しました。この活動は各メディアにも取り上げられ、多くの反響を頂きました。今後はこの提言に基づき仙台市との意見交換を行い、仙台のまちづくりに寄与していきたいと考えております。

また、今年には東日本大震災の発生から10年を迎えます。これまでも真の復興を成し遂げるために、何をなすべきか。そうした問題意識のもと、我々は行政への提言手交や意見交換を行ってまいりました。今後はこの復興と共にニューノーマル時代への変化を中心に更なる地域創生への取り組みを進めます。引き続き、政策の推進や実行を行政に促し、同時にこころの復興として数年にわたり提言を続け実現しつつある音楽ホールの早期建築にも積極的に取り組んでいきます。

また、このような状況の中、会員皆様のご協力により会員数も純増で10名増え317名となりました。会員の皆様には、更なる会員増強と積極的な情報交換や活動への参画をお願い致します。

変化に敏感に対応して 難局を乗り越えよう

代表幹事 一力 雅彦

株式会社河北新報社
代表取締役社長



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様には初春を穏やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

新型コロナウイルスの感染が再拡大する中で、2021年が幕を開けました。コロナ禍はあらゆる産業に甚大な影響を与えており、移動の制限や飲食店の営業時間の短縮を余儀なくされ、医療崩壊の懸念など、厳しい状況に直面しています。収束の気配もいまだに見えず、ワクチンの開発と普及によるウイルスとの闘いが当面、続きますが、皆様との情報の共有を一段と活発化して、コロナによる社会経済活動への変化に敏感に対応して参りたいと思います。

今年には東日本大震災から10年の節目を迎えます。宮城県ではプレハブ仮設住宅がすべて解消され、道路や施設などハード面での整備が順調に進んでいます。しかしその一方で、被災地でのコミュニティーの再生や心のケアなどソフト面での課題が浮き彫りになっています。復興のソフト面では10年で区切ることはできません。震災を忘れないための「伝承」と、今後の地域社会の未来を描くことも被災地の経済界としての大きな役割です。新たなスタートに立つ思いです。

コロナ禍では一方、テレワークやウェブでの会議が進み、場所を選ばない働き方にも注目が集まっています。地方の良さを目を向けるきっかけになることも期待されています。変革を促す大きなチャンスととらえ、新しいことに果敢に挑戦していきたいと思っております。

仙台市の都心再構築プロジェクトが動き出すことも期待されます。当会では昨年12月に「まちづくりフォーラム」を開催し、回遊性を重視した賑わいを生み出す空間を創出するよう提言を仙台市に提出しました。その具現化に向けて今年さらには議論を深めていきたいと思っております。

九つの委員会やトークインサロンなどによって、起業や競争力強化、若手の人材育成などに向けてさらに活発な議論を重ねてまいります。本年も皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

「明日を考え未来を語る」

仙台経済同友会では会員の啓発活動として、毎回多彩な講師を招いて例会を開催しています。新時代を生きる経済人として有用な先進の知識や話題など、各例会のエッセンスをぎゅっと凝縮して発信するページが「例会ダイジェスト」です。ぜひお役立てください。

2020年12月の月例会では、下記の講師にご登壇いただきました。講演内容(抄録)を仙台経済同友会のホームページに掲載しております。

12月例会

アリババが目指す究極のUX(ユーザーエクスペリエンス)

アリババ株式会社 代表取締役社長CEO 香山 誠氏

今やアメリカを超えるデジタル先進国となった中国。その牽引役を担っているのが世界最大のeコマース企業、アリババグループです。ビッグデータやAIを駆使し、デジタルトランスフォーメーション(DX)によって、このコロナ時代にさらなる躍進を果たしています。デジタル化という大きな流れの中で、産業構造はどう変わるのか、アフターコロナを迎えるにあたって自社はどう変わるべきか。中国におけるアリババグループの事例を紹介していただき、DXがもたらす効果や今後の取り組み方などについてお話しいただきました。



●講師紹介

アリババ株式会社 代表取締役社長CEO

香山 誠氏

1986年ソフトバンク株式会社入社、1999年ソフトバンク・イーシーホールディングス株式会社(現ソフトバンクBB 株式会社)設立 取締役就任、2000年ソフトバンク・ヒューマンキャピタル株式会社代表取締役社長、2006年マイスペース株式会社代表取締役を歴任。長年にわたる国内BtoBビジネス、さらには、国内や海外企業とのインターネットビジネスにおけるジョイントベンチャーの立ち上げの経験をもとに、2008年5月にアリババ株式会社代表取締役社長CEOに就任。2018年2月にアントグループジャパン代表執行役員CEOに就任している。



令和3年の新年会を盛大に開催

当会では、新春を寿ぎ会員の交流を深めるため、毎年1月に新年会を開催しています。新型コロナウイルス拡大のため、内容を変更して今年は1月24日に勝山館において、仙台市長・郡和子様をお迎えし、総勢83名で執り行いました。

大山健太郎代表幹事の年頭挨拶、来賓からの祝辞、一力雅彦代表幹事の乾杯後、参加者一同がマスク着用のうえ大いに交流を深め、盛会のうちに終了しました。



a. 大山代表幹事の挨拶



b. ご歓談の様子



c. 一力代表幹事の挨拶



d. 郡和子市長の祝辞

拡大特集

まちづくりフォーラム
パネルディスカッション

それぞれが知恵を出し合い、 仙台を変革し、若者が集まる町

仙台経済同友会が主催する「まちづくりフォーラム」が2020年12月1日に開催され、パネルディスカッションが行われました。コーディネーターは菅原裕典氏。パネリスト4人に、基調講演を行った牧野知弘氏をオブザーバーに迎えて「ポストコロナの時代、人口減少の中で若者に選ばれる魅力ある仙台をどう作っていくのか」をテーマに活発な討論が展開しました。



新幹線で1時間半で東京と結ばれている仙台は、自然も豊か。 その魅力ある地の利を生かすことが大切

菅原

少子高齢化の中、人口減少が進む中で若者に選ばれる町仙台にするにはどうしたらよいか皆さんの意見をお聞かせください。

佐藤 人口減少は日本の大きな問題ですが、出生率が東京に次いで宮城県がワースト2位というニュースは本当にショックなことでした。全国平均が1.36に対して、宮城県は1.23、とくに仙台市青葉区は1.06とかなり低い数字となっております。要因はたくさんあると思います。大学の数や都市の規模でも同レベルの広島県は1.49です。宮城は広島に比べて働きながら子育てをする女性の数が低いともいわれています。まず、女性が働きながら子育てしやすい環境を整えることが必要です。仙台市は保育園の待機児童が多く、待機児童を減らすことは急務です。仙台市は保育士の数を増やしたり様々な施策を行っているものの、効果は上がっていません。以前深松常任幹事がおっしゃっていたように、空室になっているマンションをリノベーションして高齢者のデイサービスと保育園を隣接して作るなど、新しい仙台スタイルの形を取り入れてみてはいかがでしょうか？さらに、女性が働ける環境を整えるには意識を変えることが一番と考えます。企業のトップ、上司、パートナーが理解を持って、女性が子育てをしながら働き続けられる環境を作るためにはどうしたらよいか、男性の育児休暇取得率を高めるためには何をすればいいの、などを考えなければいけないと感じます。女性を生かすことは人材そのものを生かすことに直結するので、結果として会社や町全体が良くなると考えます。仕事を続けながら安心して子育てをできる環境が整っている町、仙台をぜひ作っていきたいと思っています。

櫻井 私は宮城ワーケーション協議会を設立して活動しています。ワーケーションというと、山の中で、川のそばでパソコンを開いて仕事してい

るというイメージがあります。しかし、私が考えるワーケーションというのは、バケーションに重きを置くのではなく、ワークの方に重きを置いていくことがワーケーションであると思っています。若者を仙台に集めるには、若者が仙台で仕事が見つかるというある程度の保証が必要。そのためにはその若者がここに来ればこんな仕事があるよ、というようなしっかりとした情報を発信して行くことが大切です。

青木 弊社は飲食店を経営しておりまして、今回のコロナ禍におきまして本当に危機真ただ中にあります。仙台は支店経済の町であることから、出張時に飲食するお客が減少しており、出張される方に頼らないような業態に変えていかなければならないと考えています。また、新幹線で約1時間半で東京に行けるという、仙台の地の利を生かさなければならぬと思います。本社機能を仙台に移転していただくとか、バックオフィスを誘致するとか、を考えていくことが重要ではないでしょうか。

木皿 皆さんのお話では、働き手の引き込み、流出の抑止、流入の加速、そういったことが重要視されていたと思います。それには物理的なソーシャルインフラの拡充、価値の転換を早急に我々仙台としても取り組まなければならないというのは同感です。東北のハブ都市である仙台。若者たちが仙台に地域愛を持って、これまで以上に可能性や将来性を見出せる、そんな都市を築いていく必要があると考えております。さて、仙台JCといたしまして、2021年に仙台で、世界80カ国から有識者を招聘し、また全国47都道府県から青年会議所メンバーに集まっていただき国際会議を開催いたします。こうした活動を通じて、若者の皆さんが仙台に価値を見出すきっかけになるのではないかと考えております。

菅原

牧野さん、お話を聞いてご意見をいただきたいのですが。



パネリスト 菅原 裕典氏



パネリスト 佐藤 万里子氏



パネリスト 櫻井 亮太郎氏

人口減少が進む中、
仙台の町づくりについて
今後も幅広く考えて
いきたい

コロナで大打撃を受けた
今、昼も夜も楽しめる
ような国分町に
再構築を考える時

ワーケーションで
若者を呼び込むためには、
他地域との差別化を
することが必要

魅力ある都市として にしていきたい



画像提供
(公財)仙台観光国際協会

コーディネーター	菅原 裕典氏	株式会社清月記代表取締役	仙台経済同友会常任幹事(まちづくり委員長)
オブザーバー	牧野 知弘氏	オラガ総研株式会社代表取締役	
パネリスト	佐藤万里子氏	株式会社カネサ藤原屋代表取締役副社長	仙台経済同友会常任幹事(ダイバーシティ委員長)
	櫻井亮太郎氏	株式会社ライフブリッジ代表取締役	宮城ワーケーション協議会共同代表
	青木 聡志氏	ハミングバード・インターナショナル代表取締役	仙台商工会議所青年部・副会長
	木皿 讓司氏	株式会社ニア代表取締役	仙台青年会議所2020年度理事長

牧野 青木さんがおっしゃったように東京に近いというのはものすごいアドバンテージだと思います。仙台は逆にこれからは東京から流入する人が多くなる町の候補都市の一つだと思っています。コロナ後の社会では、多くの勤労者は、自分が好きな町、あるいは自分の生活にふさわしい町を選ぶ時代になると思います。また、仙台市内はコワーキング施

設が多いと聞いたんですけども、これなんかも重要な社会インフラになってくると思います。そして、都市でありながら自然環境もとてもいい。緑豊かですし、ゴルフ場に車で30分で行けるのですから。今後、若者、あるいは女性にとっても住んで住みやすいわね、ということで支持される町になっていくでしょう。

定禅寺通り、国分町でオープンエアのもっと人々が集う エリアにしていくコンテンツを作っていきたい

菅原

次に、我々の素晴らしい財産である定禅寺通り、青葉通り、そして国分町をどのようにしていけばよいかというテーマで、お話をいただければと思います。国分町のにぎわい創出に携わってきた会社の副社長である佐藤さん、どうお考えでしょうか？

佐藤 国分町は昭和40年代までは問屋や金融街の町でした。当社の先代が、強い信念を持って国分町にビルを建てて、そこからにぎわいが始まったと聞いております。現在、東北一の歓楽街といわれるまでになり大小約3000軒の飲食店が営業していますが、コロナ禍で大変疲弊しております。休業要請解除後もお客様が戻っておりません。廃業のお店もあり、解約の届け出もたくさん出ております。コロナで大打撃を受けた今、昼も夜も楽しめるような国分町にしていくよう再構築を考える時と考えます。

国分町を変えるにはどうすればよいか。まず高額な家賃と敷金を下げることが一番であると考えております。減価償却が終わった古いビルも多くなってまいりましたが、それを早く建て替えるということはすぐには進みません。ビルのオーナー、行政、そして大手デベロッパーさんと一緒にプラン作りをして、よりよい町づくりを進めていければと思っています。

国分町はその歴史の中で芸術や文学そして食の文化を育んでまいりました。残すものは次の時代までしっかり残し、時代にそぐわないものは

改善する、そんな国分町を目指したいと思います。

櫻井 私は宮城にワーケーションを広げる活動をしていますが、本業の(株)ライフブリッジでは、インバウンド誘客などの事業を手がけています。海外では、日本の人気はとて高く、コロナが終息したら、大勢の外国人観光客の方々が日本に戻ってくるのは間違いがありません。外国の方々に仙台をご案内した時に、定禅寺通の評判がすこぶる高い、こんな素敵な通りがあるんだと感動していただけます。実は日本全国探してもこのような櫛の並木におおわれている大通りというのはなかなかないんです。それも通りの真ん中に歩道がありますよね。あんな素敵な通りはありません。椅子を置いていますが、その椅子を欧米のように道路へ向けてほしい。道路を通る人々をウォッチングしながら、並木通りの美しい景色を見ながら、コーヒーを飲む、食事をする…というように楽しめると思います。

青木 残念なことですが、実は仙台人は他県からのお客様が来た時に、どこに連れていけばいいんだろうととまどい、仙台の魅力をすぐに語れないところがあります。

仙台は暮らしやすい町ではありますが、旅行者の方々にとって魅力的な町であるためには、やはり私はコンテンツを作っていく必要があるな、と思います。例えば国分町でいいますと、私は稲荷小路と虎屋横町を歩行者天国化して夜市にしてみようと考えます。椅子テーブルを店の外に出し、賑わいあるオープンエアの場所を作ったらどうでしょうか。



店づくりは町づくり。
これからも魅力的な
コンテンツ作りを
邁進していきたい

パネリスト 青木 聡志氏



仙台青年会議所の
ミレニアル世代の我々に
時代を作っていく
責任があるんだと自覚

パネリスト 木皿 讓司氏



仙台の人々が一致団結し、
5年で若者が集まって
くるような町づくりに
邁進してほしい

オブザーバー 牧野 知弘氏

拡大特集 | まちづくりフォーラム パネルディスカッション

行政に要望するだけでなく、我々自身がどう町づくりをしていくかを考え実践していくことが重要だと考えます。そして、コロナ禍の中、ゼヒ、スピード感を持って実施していくことが必要だと思います。

菅原

牧野さん、皆さんから様々なアイデアが出されましたが、何かアドバイスいただければと思います。

牧野 私は仙台に年に何回か来るんですけども、仙台ってこんな大都市、大都会なのに、ケヤキ並木があるためでしょうかね、町全体の空気がすごくおいしい。定禅寺通や青葉通りが、もっと仙台市で暮らす人たちの身近な存在になる戦略があるといいと思います。

定禅寺通では、櫻井さんの提案のようにベンチを通りに向けてしつらえるというのでもいいアイデアです。また、定禅寺通の中にちょっとし

たオープンエアの coworking space を作ってはいかがでしょうか。テーブルと椅子を置いて、ここでパソコン広げて仕事することもできるし、テイクアウトのコーヒーを持ってきてくつろぐこともできるようなオープンスペースが演出できるいいと思います。

皆さんのお話を聞いていて思ったのですが、いろいろなアイデアを行政の中の戦略にどんどん取り込み、これらを仙台市全体が町の戦略として打ち出し、さらに定禅寺通や青葉通りのそれぞれの細かな戦術に落とし込んでいくことが必要だと思います。



仙台の魅力を発信するには他の地域と差別化が必要。ポストコロナの時代、一致団結して仙台を変えていこう

菅原

残念ながら仙台の人々は、瑞鳳殿のような歴史ある素晴らしい場所をよく知らない人も少なくありません。どう生かすかも分からないのが課題だと思います。仙台の魅力をどのように発信したらいいとお考えですか？

青木 全国各地に同業の知り合いがいるんですけども、福岡に行った時にすごく感じたのは、その福岡の同業の方々、ものすごく福岡に対して誇りを持ちながら仕事をしているなどということです。また、大阪では東京を見たお店作りをせず、そのオリジナリティを追求しようとしている、そんな姿勢をすごくピンピンと感じます。

一方、仙台は東京の真似だけをしていることが多い気がします。そうではなくて仙台はこうやるんだと、市民も、我々も含めて誇りに思えるような、そんな町づくりをする、差別化をすることが仙台の魅力につながるのではないかと思います。

飲食店を経営する一事業者として、常日頃から店づくりは町づくりだと言っておりますので、魅力的なコンテンツ作りにこれからも邁進していきたいと思っております。

櫻井 これからワーケーションなどで若者を集めるための地域間競争が始まります。徳島、九州、北海道と、みんなワーケーション、ワーケーション言って、若者たちを募集し始めています。その中で、若い方々はどやって仕事をする地域を選んでいるかという、まず自分が欲しがられるような仕事があるという保証があることが重要。あともう一つは、コミュニティーがあることなんです。例えば、木工の職人さんが、どこかにワーケーションしようと思ったとします。鳴子に行けば木工職人さんたちが集まっている、という保証があればそこに安心して行くんですね。ですから、仙台市として、私はこんなスキルの人たちを集めることが得意です、こんな仕事をする人たちがほしいですよ、とカラーをしっかりと出すこと。そうすることによって、他の地域と差別化することができ、仙台市に若者がたくさん集めてくることができると思います。

木皿 いわゆるミレニアル世代である20代から40歳までが集まっているのが仙台青年会議所です。皆さんのお話を聞き、ミレニアル世代の我々に時代を作っていくという責任があるんだとあらためて自覚いたしました。そして、最先端のアンテナを張って、何が正解なのか、何が求められているのかを常に追求していくことが必要であると思っております。しかしながら若輩ですのでこの英知と勇気を行動に変えていく、諸先輩方にはぜひ我々にもお力添えをいただきますようお願いしたいと考えております。本日は大変学びの多い機会をいただきました。ありがとうございました。

佐藤 飲食は会社ファーストからカップル、家族ファーストへと変化しています。今の国分町の現状を見ても、地域のお客が多いお店というのはコロナ禍の中でも回復が早いんですね。社用で使われていたような大きな店はお客がなかなか戻ってきておりません。今日は飲食についていろいろお話を伺ってとても参考になりました。ぜひ、これからは生かしていきたいと思っております。

青木 我々飲食業というのは、今回のコロナ禍においてですね、一番にパラダイムシフトというものが求められる業種ではないかなと思います。これから、飲食店舗は会社利用から家族利用に変化していくと思いますし、エリアにおいても町の中心部からより郊外の方へにぎわいが移っています。そう意味では弊社そのものも今後の在り方への対応が本当に急務で、会社としてやらなければならないことも多々あります。

しかしながら、こういった時こそ、大事なことは視座を高くし、自社さえよければいいと考えるのではなく、町がどうあるべきか、そういう観点で物事を見つめ実践していくことがすごく大切なんだな、ということ今回あらためて勉強させていただきました。本当にありがとうございました。

菅原

ありがとうございます。牧野さん、最後に一言お願いいたします。

牧野 私はコロナが起こる前は、2020年の東京オリンピック、パラリンピックの開催を契機に日本社会が随分変わっていくと書物や講演などでお話してきました。ですが、どうやらこのコロナというのが、五輪開催を待たずに社会変革のスピードを速めたみたいですね。普通、町が変化する、社会が変化するには、10年かかります。コロナでみんなが同じスタートラインに立ちましたが、仙台が突出してこの競争の中で勝ち抜くには私は5年で変革をやるべきだと思っています。仙台の人は同調性が強いというお話を伺ったんですけど、逆にこの同調性を上手に利用して一致団結し、5年で仙台がものすごい変わった、なんだか突然若者が集まって、えらい楽しそうなことをやってるね、と周りが瞠目するような町づくりに邁進していただければ、と思います。そして、若者にとってカンファブルな町は、子供連れにも、ファミリーにも生活しやすい町となり、さらに活性化していくのではないのでしょうか。

菅原

今日は活発なご意見ありがとうございました。仙台の中心地の活性化のお話になりましたけれども、東西線の周辺地域のにぎわいをどう創造するかなども、我々仙台経済同友会の論点としながら今後も幅広く考えていきたいと思っております。

新入会・交替会員紹介

会員総数 342名 (2021年1月28日時点)

交替 (2名)



会員
白石 功様

コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社
宮城／山形地区統括部長



会員
長野 智幸様

三菱UFJ信託銀行株式会社
仙台支店長

PICK UP BOOKS

今月の本棚



読書の楽しみは人それぞれですが、
日ごろはどんな本を読んでいますか？
自分では選ばない本の中に、
思わぬ気づきやヒントが見つかるかもしれません。



『茶廊と画家と朝鮮戦争 ベク・ヨンス回想録』

監修：与那原 恵
訳：五十川 潔
出版社：白水社
定価：4,500円

ベク・ヨンス氏は1922年生まれ、韓国を代表する近代絵画の画家である。幼少時は大阪に暮らし、大阪美術大学で洋画を学ぶ。本書は、第二次世界大戦と朝鮮動乱の2度の戦災を生き抜き、創作への情熱を持ち続けた画家の回想録だ。淡々とした筆致で、過酷な弾圧や茶廊(タバン)と呼ばれるカフェに集まる芸術家との交流が描かれ、経験した人だけが語り得る、ある時代が浮かび上がる。晩年は長く暮らしたフランスから韓国へ戻り2018年に96歳で亡くなった。巻頭には、穏やかさと静かな悲しみが感じられる絵画作品も多数収録されている。



『烏に単は似合わない』 (文春文庫)

編著：阿部 智里
出版社：文藝春秋
定価：792円

平安時代を思わせる世界を舞台にした時代ファンタジーであり、同時に骨太の推理小説でもある。

人が語る出来事はあくまで一側面に過ぎず、気まずい事実は話題にすらしなこともある。そうしたささいなごまかしを繰り返した果てに、事実とはかけ離れた自分に都合のよい物語を作り出すことも、人間には可能だ。

クライマックスの謎解きで探偵役が、「自らの行いに責任を持つか否か」を厳しく問うシーンが圧巻だ。

出版年はやや古いが、事実と真実の境の曖昧になりがちな今こそ読みたい一冊。



『どうほく民話散策』

著者：佐佐 木邦子
出版社：河北新報出版センター
定価：1,540円

本書は、仙台出身の作家、佐佐木邦子氏がライフワークとした民話にまつわるエッセーと、ラジオ番組の脚本をまとめたものだ。

民話の採取は、人と人が関わることであるから、話し手と聞き手の信頼関係が重要だ。それは一朝一夕に築けるものではない。積み重ねた地道な活動が、東北の地に残る民話をテーマに自在に語るエッセーや珠玉の脚本という形で結実している。

生きる悲しみや喜びを語り継ぐ、その営みは、人々が確かに生きた証だ。孤立化や疎外感が顕在化する今の時代にこそ、改めて読む意味がある。



時短営業を知らせる貼り紙をはがす「ジャズ・ビレバン仙台」の渡辺徹店長
=8日午後6時20分ごろ、仙台市青葉区中央1丁目

戻らぬ客足 揺れる心境

仙台・時短要請解除

新型コロナウイルスの感染拡大防止策として、仙台市全域の酒類提供店に出されていた午後10時までの時短営業要請が7日で終了した。通常営業が再開した8日、名掛丁商店街（青葉区）の老舗ジャズバー「ジャズ・ビレバン仙台」では、入り口に掲げていた時短営業のお知らせを外した。

（14面に関連記事）

経営者の渡辺清さん（68）は「協力金はとても助かっていた。正直（要請を）もつと延長してほしかった」と話した。店は国分町エリアに時短要請が出た昨年12月末の段階で来客数が激減。市全域への拡大で、前年比9割減に落ち込んだ。今後について、渡辺さんは「客の動きは変わらない。気持ちが開放的になって来店が増えてほしいが、感染再拡大を繰り返すのも怖い」と思いは複雑だ。

（出典：河北新報 2021年2月9日（火））

次号の特集のご案内

気温はまだ低いものの、太陽の光がキラキラと力を増し、日増しに昼の時間がのびるこの時期は、「光の春」と呼ばれるそうです。本格的な春の訪れを待つ美しい言葉ですね。今回は、昨年行われたこれからの仙台を考えるフォーラムを特集いたしました。次号は歴史シリーズの伊達物語で、筆まめだったという政宗の書簡を特集する予定です。

仙台経済同友会

BIMONTHLY REPORT

2021年2月号 No.406 令和3年2月20日発行

○発行人／大山健太郎 一力雅彦 ○編集人／川嶋輝彦 ○発行所／仙台経済同友会
〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービルディング12階
TEL／022-223-8555 FAX／022-262-2650 URL／http://sendai-doyukai.org
製作・印刷／今野印刷株式会社